

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年11月11日

協議会名: 今金町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社 東ハイヤー	予約バス「ルンるん号」 八東・白石地区 金原・豊田地区 日進地区 田代・稲穂地区	・広報紙面やチラシの配布等を行い、利用促進を図った。 ・市街地エリアでの乗車を継続して実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 金原・豊田地区及び日進地区については昨年度と比較して利用者が増加しているが、全体では約10%減となっており、新型コロナウイルス感染症の影響及び日常的に乗車していた利用者の対象地区外への転居や人口減少の要因もあり、目標を下回った。 目標: 3,750人 実績: 3,370人	・利用者への聞き取り等によりニーズを適切に把握し、ダイヤ設定の見直しなどを検討する。 ・広報紙面やチラシの配布等継続した情報発信を行い、利用促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年11月11日

協議会名：	今金町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>今金町は北海道渡島半島の北部に位置し、南はユーラップ山系を挟んで八雲町と、北は狩場山系を介して島牧村と、東は低い山地を経て長万部町と、西はせたな町と接しており、四方が山岳丘陵に囲まれた内陸地である。面積は568.25km²、人口は4,804人(令和4年10月末現在住民基本台帳)。</p> <p>人口のうち約2割が75歳以上の高齢者で、その割合はさらに増加することが予想されており、現在の自家用車中心の地域交通のままでは今後日常生活において不便が生じる世帯が増加することが懸念される。</p> <p>このため、町内の交通不便地域の解消を図ることを目的として、地域間幹線系統(函館バス瀬棚線)に接続する地域内フィーダー系統のデマンドバスを運行し、患者輸送バスやスクールバスの運行も併せて見直ししながら、地域の生活交通ネットワークの構築を進めているところである。</p>

今金町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

今金町は人口の約2割が75歳以上の高齢者であり、その割合は更に増加することが予想されるため、現在の自家用車中心の地域交通のままでは今後日常生活において不便が生じる世帯が増加することが懸念される。

このため、町内の交通不便地域の解消を図ることを目的として、地域間幹線系統(函館バス瀬棚線)に接続する地域内フィーダー系統のデマンドバスを運行し、地域の生活交通ネットワークの構築を進めるところである。

生活交通確保維持改善計画の目標

令和3年度と比較し、利用者数が減少したことから、前年度申請と同等以上の利用実績を目標とする。

予約バス「ルンるん号」全体の利用者数 3,750 人

令和4年度事業概要

予約バス「ルンるん号」【八東・白石地区】【金原・豊田地区】【日進地区(補助対象外)】【田代・稲穂地区】

- ・運行形態: デマンド型フィーダー路線
- ・運行事業者: 有限会社東ハイヤー
- ・運行日: 平日、土曜日(日曜日・祝日は運休)
- ・運賃: 1回(片道)200円

地域公共交通の現況

- ・函館バス株式会社(町内1路線)
～国鉄廃止に伴う代替幹線バス路線
- ・スクールバス
- ・患者輸送バス

協議会開催状況

令和4年6月13日 令和4年度第1回協議会を開催(書面会議)

- ・本計画の承認

令和4年7月13日 令和4年度第2回協議会を開催
・役員を選出、収支決算及び収支予算案の承認 等

令和4年11月11日 令和4年度第3回協議会を開催
・地域公共交通計画(素案)提示、事業評価の承認

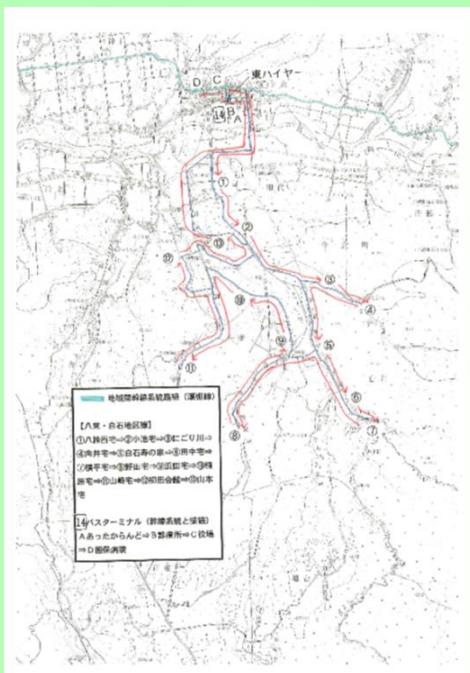
令和4年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

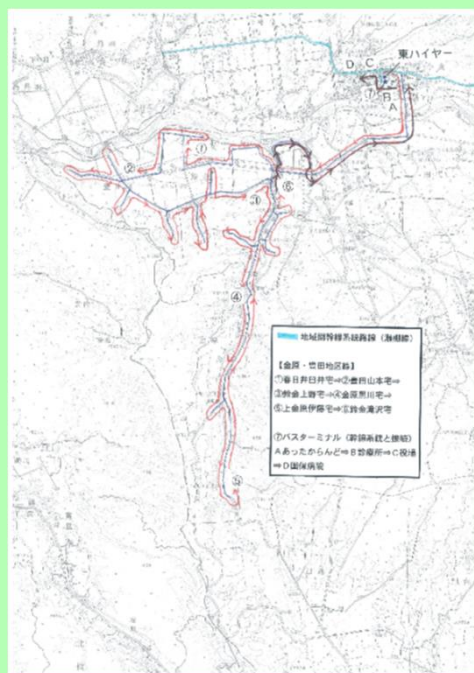
- ・フィーダー路線のエリア選択は、平成25年度実施の今金町地域交通サービス導入調査及び地理的事情に勘案し決定。
- ・前年度に実証調査運行を行い、最終的なダイヤを決定。
- ・地域住民説明会の開催、町広報紙による周知、運行地区全世帯への時刻表の配布、患者輸送バスに同乗し制度切り替えの説明等により、住民周知を行った。
- ・平成30年4月より、複数名又は団体による一括予約やファックスでの予約を可能とし、より利用しやすい受付体制を整えた。
- ・令和元年7月より、これまで下車のみであった市街地エリアでも乗車を可能とし、継続して運行を実施した。

2) 運行系統

八束・白石地区



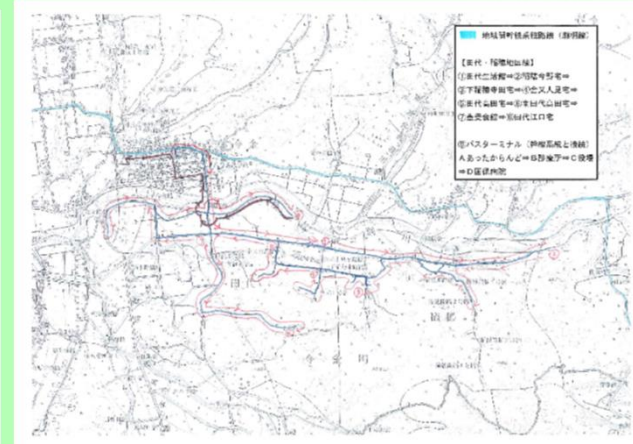
金原・豊田地区



日進地区

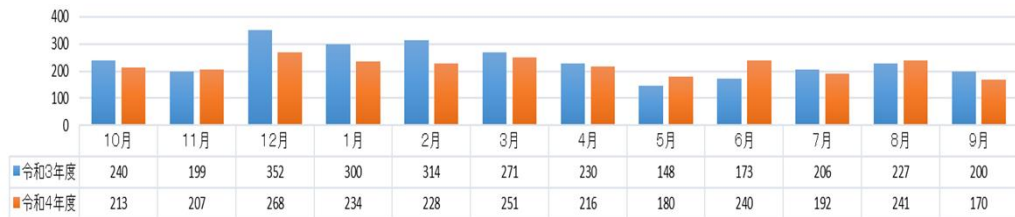


田代・稲穂地区



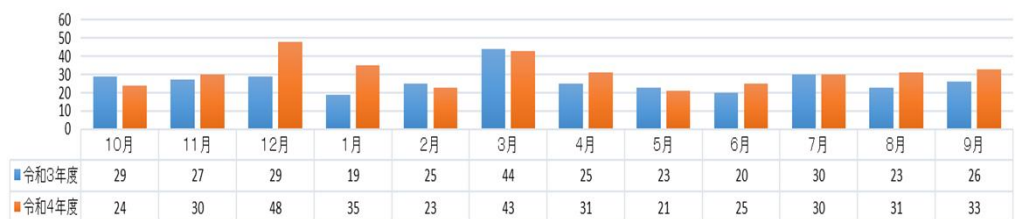
3) 利用実績

八束・白石地区



合計 ■令和4年度 2,640人 ■令和3年度 2,860人※堺り最終便(補助対象外)利用者3人を含む

金原・豊田地区



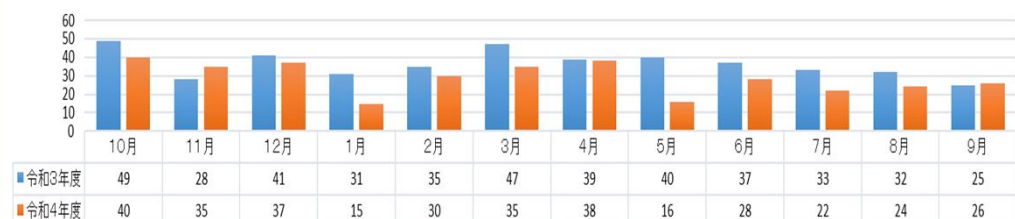
合計 ■令和4年度 374人 ■令和3年度 320人

日進地区(補助対象外)



合計 ■令和4年度 5人 ■令和3年度 4人

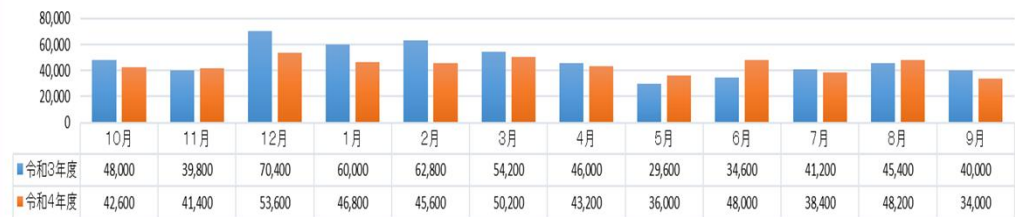
田代・稲穂地区



合計 ■令和4年度 346人 ■令和3年度 437人

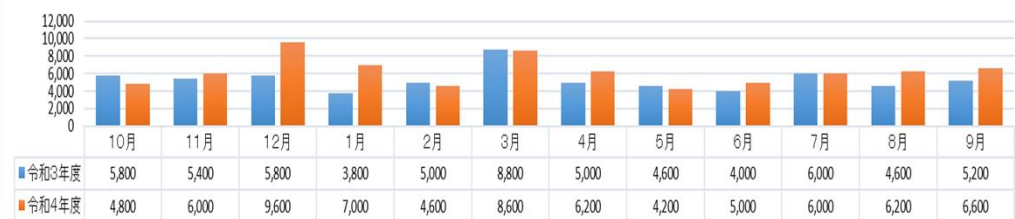
4) 収入実績

八束・白石地区



合計 ■令和4年度 528,000円 ■令和3年度 572,000円※堺り最終便(補助対象外)料金600円控含む

金原・豊田地区



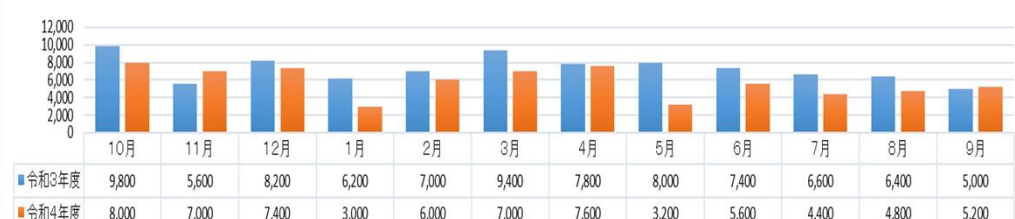
合計 ■令和4年度 74,800円 ■令和3年度 64,000円

日進地区(補助対象外)



合計 ■令和4年度 1,000円 ■令和3年度 800円

田代・稲穂地区



合計 ■令和4年度 69,200円 ■令和3年度 87,400円

5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

金原・豊田地区及び日進地区については昨年度と比較して利用者が増加しているが、全体では約10%減となっており、新型コロナウイルス感染症の影響及び日常的に乗車していた利用者の対象地区外への転居や人口減少の要因もあり、目標を下回った。

目標: 3,750人/年

実績: 3,370人/年 (89.9%)

7) 事業の今後の改善点

- ・利用者への聞き取り等によりニーズを適切に把握し、ダイヤや設定の見直しなどを検討する。
- ・広報紙面やチラシの配布等継続した情報発信を行い、利用促進を図る。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄